

2年生を対象に「合格者報告会」を実施しました

2月5日(金)のホームルーム活動の時間に、3年生の進学試験・就職試験の合格者から進路達成の体験を聞く「合格者報告会」を実施しました。

就職希望者は、公務員試験に合格した3名(野辺地町職員・平内町職員・北部上北広域事務組合)の体験を聞きました。2年生は公務員試験の具体的な勉強法を直接質問したりメモを取るなどしながら、真剣に聴講していました。

進学希望者は文系・理系・看護医療系の3グループに分かれて、総合型選抜や学校推薦型選抜で国公立大学に合格した3年生から、進路達成に向けて工夫したことや苦労したことなどを聞いて、今から準備しておくべきことを学びました。3年生からの助言で目立ったのは、志望する分野の専門知識を身に付けるために、本や新聞を読むことや体験活動に参加することの重要性です。先生方からも「本や新聞を読みなさい」「課外活動に参加した方がよい」と言われていると思いますが、身近な先輩から同じ内容を聞くことで、その重要性を強く実感できたのではないのでしょうか。

また、体験発表後には、本番さながらの緊張感の中で模擬面接を行い、青森県立保健大学の学校推薦型選抜で実際に発表したプレゼンテーションを実演してもらうなど、より実践的な試験内容について認識を深めることができました。

先輩方の姿を見て、「すごい」と感想を持つだけでは意味がありません。2年生のために貴重な時間を割いてくださった3年生のために、この報告会で学んだことを今後の学校生活での具体的な取り組みに繋げるようにしてください。

協力してくれた3年生のみなさん、本当にありがとうございました。



3年生による体験発表の様子



模擬面接の様子(一番右はプレゼンテーションの実演)



今年度に3年生を指導した先生方からもアドバイスをいただきました

学年末考査が行われます

2月16日(火)から19日(金)までの4日間、学年末考査が行われます。2月10日(水)からは部活動禁止期間となりますので、特に部活動に加入している生徒は、気持ちを切り替えてテスト勉強に取り組んでください。「合格者報告会」で発表した先輩方に共通している点は、評定平均値が高いことです。つまり、学校のテストを一生懸命頑張ったということです。見習ってください。

模擬試験と区別して学校の考査を軽視する生徒がいますが、それは間違いです。人がする区別は恣意的です。この恣意性はキャンセルできません。恣意的区別はあなたの成長の妨げになり、いずれ「やりたいことしかやらない人間」になり、周囲から見放されます。社会に出てから求められる力は、目の前の仕事に区別なく全力で取り組むことができる力です。

その力を高めるためにも、学年末考査の勉強に全力で取り組んでください。健闘を祈ります。

「PDCAサイクル」を回す

2年生は1月下旬に記述式模擬試験、2月上旬にマーク式模擬試験を受験しました。1年生も1月下旬に記述式模擬試験を受験しました。模擬試験は高校入学から学習した内容が全て問われるため、出題範囲は徐々に広がっていき、難易度も高くなっていきます。だから、「難しい」と感じた人が多かったのではないのでしょうか。

そう感じるのは、現在の学習形態に問題があるということです。高校受験は中学3年生になってからでも学習の遅れを取り戻すことが可能だったかもしれませんが、大学受験で同様のことを実現するのは至難の業です。

120分間机に向かって、学習記録に「120分」と記録している人がいると思いますが、本当に120分間集中して勉強していますか？半分くらいはスマホを見てるんじゃないですか？それだと実質の学習時間は60分くらいじゃないのでしょうか？人間は、スマホが衣服のポケットに入っているだけで、集中力が下がることが科学的に証明されています（詳細は13号で述べます）。だから、勉強しているときに机上にスマホがある人は、自分から距離をとったところにスマホを置くようにしなくてはなりません。

スウェーデンの精神科医アンデシュ・ハンセン氏が提言しています。今のところ「スマホを自分から遠ざける」以外に、私たち現代人が集中力を保つ方法はないんです。だから、この方法は今すぐに実行に移してください。

勉強で大切なのは「時間」ではありません。「深さ」です。

自分で勉強しようと決めた時間に、何を学びたいのかを明確にすること。日々の課題プリント1枚、ワーク1ページだって、深く学ぼうとする意識の有無で、毎日大きな差になっていくんです。それを60分で理解できるのなら、その日の学習は60分でもいい。逆に理解できないのなら、2時間でも3時間でも時間をかけなければなりません。

私たちがニュースで目にする「国会審議」だって同じです。よく「法案Xについては60時間以上かけて審議した」「法案Yについては20時間しか審議していない」という言い方がされますけれども、審議時間がいくら長くても、国民の理解が得られるまで議論が深まらなければ、いくら時間をかけても審議を終えてはいけなはずですし、熟議を通して幅広く国民から理解が得られたのであれば、審議時間は短くても構わないのです。

志望する進路を実現するためには、学習において「PDCAサイクル（右図）」を回すことが重要です。テストに向けて計画や目標を立て(P)、テストを受験し(D)、その結果を評価して(C)、次のテストに向けて改善を図る(A)。テストを受験してその結果を評価し、そこでサイクルが止まっている人が多いのではないのでしょうか。

PDCAサイクルは「回すこと」、特に「改善(Action)」を図っていくことが重要なんです。受験後にできなかったところを見直し、これまでの学習法の改善を図ること。そこが抜け落ちている限り、成績は伸び悩むと思います。部活動も同様です。対外試合で目標としていた成績を収めることができなかつたとき、以前と同じメニューで、同じ方法で練習しても、次回も同じ結果になることでしょう。勉強・部活動の両面で「PDCAサイクル」を回すことを意識してください。



進路コラム

Closer than ever:
It is 100 seconds to midnight

2020 Doomsday Clock
Statement

Science and Security Board
Bulletin of the Atomic Scientists
Since 1947



Doomsday clock

みなさんは終末時計 (Doomsday clock) を知っていますか？人類が滅亡する「地球最後の日」を午前0時とし、それまでの残り時間を象徴的に示す時計のことです。原爆を製造したマンハッタン計画に携わった科学者らの一部が中心となり、核兵器の脅威に警鐘を鳴らすために始めたものですが、今世紀に入ってから気候変動による自然災害も考慮されるようになりました。米科学誌「ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト (原子力科学者紀要)」が1947年から定期的に残り時間を発表し、午後11時45分頃から午前零時頃までの部分を切り出した絵で表現されており、危機が高まると針が進み、遠のくと戻ります。

ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティストは2021年1月27日に

終末時計の時刻を昨年と並んでこれまでで最も短い残り「1分40秒」と発表しました。

その理由について雑誌の責任者は「国際社会は新型コロナウイルスに適切に対応できていない。それは核兵器と気候変動にもいかに準備不足であるかを気付かせた」と述べて、地球規模の課題に国際社会が協調して対処できていないためだと指摘しました。

私たちには今、「関心を持つこと」「連帯すること」が求められているのです。

「私は1人で何でもできる」ということを「自立」と勘違いしている人がいますが、それは「孤立」です。全てを1人でやる必要はありません。全ての人々が各分野で「プロ」となり、お互いに支え合った方が確実に生き延びる可能性は高くなります。

1人の人間にできることは限られますが、2人、3人と人間が連帯していくと、できることが爆発的に増えます。これまで、人類は連帯して生き延びてきました。「明日は大掛かりなシカの狩りがあるから、サバンナにいる数千頭のライオンみんなで連帯しようぜ！」というライオンは存在しません。そのような大きな単位で連帯できるのは地球上で人だけです。香港やミャンマーなど、各国で行われている大規模なデモ活動や、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが呼びかけている活動が人間の連帯を示す好例です。

インターネット上では「終末時計なんて何の役に立つのか」という言説が目立ちますが、専門家が本気で警鐘を鳴らしているのです。

事態は深刻です。私たちの想像以上に。本当に時間がありません。

だから、専門家の忠告に耳を傾け、まずは関心を持つようにしましょう。平和に関心がある人で溢れた社会と、そうでない社会では、前者の方が生き延びる確率が高まります。平和は草木のように、勝手に生えてきたわけじゃないんですよ。先人のたゆまぬ努力の上に今の平和が築かれて、私たちはその恩恵を受けているんです。自然環境も限界にきています。できるだけ元通りの環境に戻して、次世代へ引き継いでいく義務が私たちにはあります。この義務を果たしていくためには、私たち一人一人が直面している問題に対して関心を持ち、他者と連帯して解決に立ち向かっていくしかありません。

終末時計は、私たちに「関心を持つこと」や「連帯すること」の重要性を訴えているのです。

Doomsday Clock - Minutes to midnight

